

くずし字入門講座 No.3 テーマ「数字・度量衡」 第3問 解説と読解例

⑩ 上田 廿一步	⑨ 上田 三畝廿一步	⑧ 上田 四畝六歩	⑦ 上畠 三畝	⑥ 上畠 三畝六歩	⑤ 上田 廿一步	④ 上田 九歩	③ 上田 十八歩	② 上田 ■六歩	① 上田 三畝十五歩
八升四合	五斗九升七合	六斗七升二合	四斗八升	三斗八升四合	八升四合	四升八合	九升六合	三斗五升二合	五斗六升
六郎右衛門	同人	井右衛門	与介	六郎右衛門	又左衛門	同人	同人	与介	六郎右衛門

太閤検地における単位

太閤検地以前、面積の単位は1間四方を1歩、120歩を小、180歩を半、240歩を大、360歩を1段(反)としていました。しかし、それらは1間の長さが様々で統一されておらず、他にも単位存在していました。

そこで、太閤検地ではこの従来の不統一な長さ・面積の単位を統一しました。曲尺の6尺3寸を1間と定め、1間四方を1歩、300歩を1段としました。

また、柵も従来は様々な柵が使用されていましたが、太閤検地では京柵を公定柵とし、ほぼこれに統一されました。

(①～⑩の丸数字は首部から何行目かを表します。)

今回の課題は、以前取り組んだ検地帳ですので、全体を通して数字や単位を表す漢字が多いです。こちらは何回も同じ字が登場しているため、一度出てきた字の特徴を覚えておいて解説に役立てるというテクニックを活用しましょう。

①「畝」は以前の課題で登場していますので、覚えていた方はすぐに読めるでしょう。編が四角のような形状、旁が人か久のような形状に見えますし、なおかつ田の面積の単位ですから、答えは絞ることができます。

また、「五」もこれまでの課題で登場しています。忘れたとしても、形状や書き順を観察してみれば分かるはずです。ここには数字が入ると予想できるので、漢数字を総当たりしてもそれほど苦労はしないかもしれません。

「歩」については、以前の課題で登場していて、覚えている方もいるかもしれません。初見では大変ですが、田の面積の単位を調べれば、答えを絞り込んで辞書を引いて探すことができます。このように、何度も登場する字は非常に簡略化して書くことが多くなります。

②「六合」と読んでしまうところですが、「二合」が正解です。このような場合、他の部分を観察し、「二はどのように書いているか?」「六は登場していないか?」と探してみましょう。すると、幸い比較できる部分がありますので、それぞれを比較して答えを出します。

③「十八」ですが、「六」にも見えてしまいますね。ただ、「六」が登場している部分があり、比較するとちょっと間が開いていることが分かるでしょう。このように、自分が今解説している部分だけではなく、他の部分も観察していくことで、くずし字の解説をより進めていくことができます。

④「谷」のように見える部分がありますが、「八合」が正しいです。「谷」だとすると、意味がよく分かりませんよね。また、これまでも「〇合」と出てきていますから、「数字+合」と予想して、漢数字を探しましょう。

⑤「廿」については、以前の課題で登場しています。「サ」にも見えますが、もしそうだったとしても、意味が通じないでしょう。「十+十=二十」と考え、「廿」にたどりつきましょう。

続いて、「一步」についても、「下」としたくなりますが、やはり意味が通じません。他の部分が「〇歩」となっていることに気づけば、「数字+歩」と気づくことができます。

⑥「四」は形状が四角のように見えることと、漢数字が入ると予想できることから、答えを出すのは容易です。

⑦ 全てこれまでに登場した字ですので、解説は困難ではありません。

⑧「六」か「七」で悩ましいですが、他の部分と「六」と「七」を比較して答えを出しましょう。

⑨「廿」は⑤にも登場していますから、形が同じものは同じ字と考えて解説しましょう。

⑩ ①～⑨までしっかりと読んでくれば、何も難しいことはありません。登場したことのある字ばかりです。